

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【向小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	同集団・異集団比較において苦手な分野に大きな変化が見られないことから、自ら課題を見つけて取り組むことが苦手であると考えられる。課題の提示の仕方や教材選択のさせ方、発問等を工夫することで、児童が自ら疑問をもち、課題に対して興味・関心を高められるようにしていきたい。
思考・判断・表現	同集団・異集団比較において苦手な分野に大きな変化が見られないことから、自ら課題を見つけて取り組むことが苦手であると考えられる。主体的な課題解決に向け、児童が自らの考えを様々な方法で表現できるようにしたり、交流の仕方を工夫できるようにしたりすることで、対話力や言語力を身に付けさせ、児童が自らの学びを深められるようにしていきたい。

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題> 国語「言葉の特徴や使い方の事項」の領域において、主に敬語、主語・述語などの正答率が低い。 <指導上の課題> 児童が反復・習熟に取り組む時間の設定が不十分である。	⇒ 朝の学級の時間を限定的に「朝学習」に変え、「ドリルパーク」を活用して敬語、主語・述語などの反復・習熟に取り組み言語力を育む【学校独自でまとめた「ミライシード」「ドリルパーク」使用率を50%以上】。
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語「話すこと・聞くこと」の領域において学年によって課題がある。 <指導上の課題> 授業において子ども主体となる学びに差がある。	⇒ 協働的な学習活動を多く取り入れた授業を実践する【R6年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができていますか」(5, 6年)の質問項目において、肯定的な回答の割合が90%以上】。

全国学力・学習状況調査 <小6・中3> (4月～5月)

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	B	6月と2月の3日間を「朝のドリルパークタイム」として設定し、敬語、主語・述語などの反復・習熟に取り組んだ。学校独自でまとめた「ミライシード」の「ドリルパーク」使用率は、48%だった。異集団比較において「言葉の特徴や使い方の事項」の領域がR5年度の結果を上回った学年もあったことから、取り組んだ結果が一部表れていると考えられる。
思考・判断・表現	A	学校課題研修では、自ら課題を見つけ解決する児童を育成すべく、「めあてに沿った話し合いを深める手立ての工夫」を講じてきた。主に、理由を大切に話し合いを意識することで、他教科での協働的な学習場面に生かし、対話力や言語力を育むことができた。R6年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができていますか」(5, 6年)の質問項目においては肯定的な回答の割合が95%以上であったことから、取り組んだ成果が表れていると考えられる。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語の主語と述語との関係を捉えることができた児童が多かった。
思考・判断・表現	国語の自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題で解答類型を見てみると、目的に応じて事実と感想、意見を区別して書いていない児童が多かった。算数の道のりと時間の関係を考察する問題では、速さが一定であることを基に問題場を整理して考察できていない児童が多かった。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語では、「言葉の特徴や使い方の事項」、算数では、「数と計算」「図形」領域に課題のある学年が多かった。引き続き反復・習熟に取り組む時間を確保したい。社会では、資料から考察することに課題が見られた。まとめでふりがなを共有することで、よい考察を広め、工夫や努力を考えられるようにしたい。
思考・判断・表現	国語では、「話すこと・聞くこと」「読むこと」領域に課題のある学年が多かった。相手の立場や意図を考えながら話したり聞いたりすること、また、語彙を増やすための読書の時間を確保することを意識したい。算数では、全国学力・学習状況調査と同様「問題の場を把握」して解を求める問題に課題がみられた。引き続き問題場を整理して、既習の学習と関連付けられるようにしたい。

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	A	6月の3日間を「朝のドリルパークタイム」として設定し、敬語、主語・述語などの反復・習熟に取り組んだ。学校独自でまとめた「ミライシード」の「ドリルパーク」使用率は、43%だった。授業の中でも活用できるよう、実践を共有広めていく。	変更なし
思考・判断・表現	A	R6年度全国学力・学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができていますか」(6年)の質問項目において、肯定的な回答の割合が96.5%だった。学校課題研修を通して、国語や学級活動で対話力や言語力を育む授業を実践している。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)